

自然を守り環境を豊かに

浜松市内小学校

山本 さん

「そこに捨てていいの？」

海に捨てたら生き物達がけがをしてしまう。

学校の行事でよく湖岸清そうを行う。ボールやライターやカン、ペットボトルなどがたくさん落ちているところわくて、生き物が心配で手が止まってしまう。このライターで生き物達はけがをしなかったか。

この前は角がとがった土台や、ものすごく長い鉄パイプが落ちていた。雨の日の次の日はゴミがものすごく流されてきてゴミがわりょうになる。

一年生から五年生は軍手で、六年生は火ばさみでゴミを集める。全部で八ふくろほどのゴミが集まった。八ふくろぶん生き物たちがくらしやすくなってくれたかもしれない。と考えるとうれしくなる。

冬になるとカモがわたって浜名湖に飛んでくる。昨年の冬には、家の近くにコウノトリがやってきた。それだけ湖がきれいになり、ここに来たいと思ったのかな、と思うと湖岸清そうをやったかいがある。

この夏、清そうした湖をみんなで遠泳した。泳いでいたら一ヶ所ペットボトルがたくさんあり、きけんだった。ペットボトルから遠回り

をして、ゴールを目指した。泳いでいる時に、生き物たちがこんなに大変な苦勞をしていると知ると心がいたくなった。生き物たちはごみいっぱいの中でいやな苦しい気持ちになっているんだ。と初めて気がついた。

その時、これからはどうしたらいいか考えた。

その一。ゴミを捨てないようによびかけをする。

その二。月に一回湖岸清そうを行う。

その三。どうしてゴミを捨てるのか原因を調べる。

その四。ポスターや標語を作り、はる。

この四つを守れば生き物がふえるかもしれない。生き物がふえれば自然がふえる。自然がふえれば環境が良くなる。いいことばかりだからまたみんなにいてほしい。

自分達の力で、自然を守り、大事にしていくことが人間にも生き物にも安全でくらしやすくなると思う。